

(正解)

問1 文中の傍線a～eの、漢字には読み方をひらがなで記し、カタカナには漢字を記しなさい。

a りふじん b 復興 c 駈 d ふし e 雰囲気

問2 文中の傍線①「ひよっとしたら今の我々の方が当時の都の官僚より詳しく知っているのかもしれない」とはどういうことか、簡潔に説明しなさい。

現代社会では、これまでの災害史研究や考古学的知見、インターネット等の情報ツールの発達により、過去に起きた災害も、遠く離れた場所の災害も詳しく知ることが可能になっているから

問3 文中の傍線②「この国土にあつて自然の力はあまりに強いから、我々はそれと対決するのではなく、受け流して再び築くという姿勢を身に着けた」と同じ内容の表現を、本文中から五五字以内(句読点含む)で抜き出しなさい。

事態が自分の力の範囲を超えることを明白なこととして認知し、受け入れ、その先の努力を放棄して運命に任せる

問4 筆者は戦後の日本人の態度について、傍線③で、「戦争の災禍を一種の天災と受け止めたのではないか」と述べている。なぜ、そのように考えたのか。本文中の言葉を用いて筆者の考えの根拠を説明しなさい。

多くの天災は、一つのステージに留まらず速やかに次に移ることを日本人に教えてきた。戦禍を天災と受け止めたからこそ、日本人は、責任追及や後始末をすることを避け、速やかに忘れて前に入る道を選んだのではないか。

※前半部分のみ解答 ↓ 2点 後半部分のみ解答 ↓ 4点

問5 文中の A に、「無常」の対義語を、本文中の言葉を用いて記しなさい。

不変 (※ 揺るがない、忘れてはいない、真理 ↓ 1点)

問6 筆者は、文中の傍線④「諦めのよさ、無常観、社会を人間の思想の産物と見なさない姿勢」は、何によって形成されたと考えているか。

筆者は、災害（噴火、地震、津波）によって国民性が作られたと考えている

問7 文中の

B

 に、適切な接続詞を記し、論理的整合性を整えなさい。

しかし、だが、けれども、しかしながら、だがしかし、一方で、（※逆接続詞であれば良い）